

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価 結果・学校関係者評価

学校名	小城市立 牛津中学校
1 前年度 評価結果の概要	「確かな学力の育成」については、全職員による相互参観授業や効果的にICTを活用することで、授業の質が向上し、生徒が意欲的に授業に臨む姿が見られた。家庭学習等の取り組みについては、基礎的な知識の定着と家庭学習の習慣づけを行うため、さらに工夫・改善を行う必要がある。「豊かな人間性の育成」については、約9割の生徒が望ましい学年・学級集団づくりをされていると答えたことから、学級活動や道徳等の授業、行事等を通して、「思いやり」や「感謝」について考えることができた。「健やかな体の育成」については、9割以上が「健康教育」を通じて、自他の命を尊重する態度が育ったと思う生徒や健康に食事は大切であると生徒が答えたことから、健康や安全に対する意識を高めることができたと考えられる。

2 学校教育目標	豊かな人間性を培い、志を高く学び続ける生徒の育成 ～ 主体性を高めることを通して ～
----------	--

3 本年度の重点目標	① 確かな学力の育成：基礎的基本的な学習内容の定着と家庭学習の習慣化を図る ② 豊かな人間性の育成：支持的風土をもつ集団づくりを推進し、感謝する心の育成を図る ③ 健やかな体の育成：健康、安全に対する意識を高め、基礎的な体力の向上を図る
------------	--

4 重点取組内容・成果指標

(1)共通評価項目		重点取組		学校関係者評価	
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	評価	意見や提言
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策委員会に示したマイプランの成果指標を達成した教員を80%以上にする。	●教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修で授業参観を全員が行い、成果指標の達成を目指す。	A	●授業の構想が確立できていることは、学力の向上、生活の確立にもつながり評価できる。全職員による相互参観授業の実践により教師のスキルアップとなり、学力向上につながっていると評価する。 ●前年度と比べると学力が向上しており、教師の努力・工夫が感じられる。
	○効果的にICTを活用した授業の実践	○「ICTを活用した授業を実施した」と答える教員を100%にする。	●ICT活用研修を複数実施し、職員のICT活用能力を向上させる。 ●一人1回の参観授業を行い、積極的な授業でのICT活用を目指す。	A	●ICTの活用が定着したことは、生徒自身の意欲が増し、積極的に授業に取り組む生徒が増えてきている。個別支援も含め、教師の協力体制の強化を期待する。 ●ICTを活用し、生徒の理解力、学習の向上が図られている。 ●生徒達は上手に活用している。苦手な生徒の引き上げが課題である。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○生徒一人一人が安心して生活できる学級集団づくりを推進し、道徳の学習を通して、自己有用感・自己肯定感を伸ばしていくことができるよう、アンケートで検証しながら、割合を75%以上にする。	●学年職員全員で道徳の授業を行い、人間性を培い、支持的風土を醸成し、認め合い支えあえる学年・学級集団づくりの推進を行う。	A	●90%以上の生徒、保護者、教師が学校生活に満足できているということは、学級・学年集団が安定していると言える。道徳や他の教科指導の中で、心の教育推進を一層図って欲しい。ただ不登校生徒や不満足生徒への個別支援の在り方が課題となる。 ●生徒・職員・保護者間でお互い支え合い、認め合う教育が図られている。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○生徒のつづき等、生徒の姿容を常に観察し、定期的な調査等(月に1回)を実施する。	●生徒指導部や生徒支援部会の運営を充実させることで情報を共有し、職員研修等で職員スキルアップを図り、いじめの未然防止に努める。 ●QIUの実施により、支援が必要な生徒の把握と対応に努める。	A	●担任と保護者の連携が上手くいっていることは、いじめを未然に防止でき、よりよい学級生活ができているということである。SNSのトラブルは今後も高くなるので、最新の学習を重ねてほしい。 ●経過観察、状況の確認及び連携、フォローアップが良く実施されている。 ●早期発見と当事者との面談を通じて解決してもらいたい。 ●事例は発生しているものの早期対応がなされている。
	○支持的風土に根ざした望ましい学級集団づくりの推進	○アンケートで、「思いやり」「感謝」の心をもつ割合が80%以上、「自己肯定感が高い」生徒の割合を75%以上とする。 ○QUU実施の2回目は各学級の学級生活満足度の割合を1回目実施より増やす。	●年2回のQUU実施とその検証に基づき安心して生活できる学級集団づくりを目指す。	A	●年2回のQUUアンケート、教育相談の効果は期待できる。日常生活の気配り、声かけの成果が上がっていると思われる。 ●QUUアンケートを基に学校生活意欲、学級満足、ソーシャルスキルを把握して健全な集団作りがされている。 ●少しずつ満足度を上げていってもらいたい。
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に食事は大切である」と考える生徒85%以上	●学校給食を「食育」の中心に据え、健やかな命を育むための食に対する知識の習得と自分の健康について考えた食事をしようとする態度の定着を図る。	A	●朝食の大切さは、十二分に理解し、健康増進に努めていると評価できる。食育教育を栄養教諭とも連携を図りながら、さらに学習を続けてほしい。 ●個々の実態に応じて食生活の改善がなされている。 ●家庭学習の充実させるとともに早寝・早起き・朝ごはんの実践が大切である。
	○健康・安全教育の推進	○健康教育や予防教育を年1回計画し実施する。	○自分の体のことを知り、健康を守ろうとする意識を高めるために、学校医等の外部講師による保健指導を工夫する。	A	●「健康教育」は、外部講師との学習を通して生徒自身も真剣に取り組んでいる様子が見える。外部講師を招聘することにより、緊張感も高まり、より高度な専門的な学習が可能となる。今後も継続し、学習を重ねてほしい。 ●自他を尊重することは大切だと思う。100%の回答が素晴らしい。 ●家庭内で実践、推進してもらいたい。 ●命の大切さについては高い水準で子ども達が理解できているので継続してほしい。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教員委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	●部活動の活動時間や活動内容の適正化を図る。 ●定時退勤推進日の設定を行うとともに声かけを行う。	A	●部活動休業日は、ほぼ100%実施でき、定時退勤も呼びかけを聞かれている。働き方改革を意識し、70%達成は、意識の向上を強く感じる。今後とも行事の精選を含め、職員の健康管理にも一層努めてほしい。 ●部活動や教材準備等で多忙だと思うが、先生方の負担が少なくなることを願う。 ●良い方向にあると思うが、外部指導者の確保が課題。
	○チームを重視した効率的な業務の推進	○効率的な業務への取組を推進するとともに、教職員の時間外勤務について1か月当たり、前年度比5%削減する。	●チームによる組織的な対応を進めることで負担軽減を図るとともに、風湿しのよい職場環境づくりを進める。	A	●一人に負担が集中しないよう、チームとしての指導支援の体制が大切であり、それがスムーズに実践できている。削減できるものは削減しながら働き方改革を推進していただきたい。 ●効率化を追い求めると生徒に支障がないか気になる。 ●少しでも効率化、工夫をしてほしい。
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目					
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	評価	意見や提言
○小中連携	○小中連携による学力向上の取り組み	○小中による授業参観を学期に1回行う。	●小中による授業参観後、情報交換会を行い、課題、今後の取り組みについて共有する。	A	●小中連携が効果的に定着している様子。今後は、授業の乗り入れ、出席授業が実践できればと思う。小中の教師間の交流は、必ず児童・生徒のあらゆる面の向上につながる上で可能な限り実践してほしい。 ●小中学校で連携が良く図られていると思う。 ●特に新1年生との連携を重視してほしい。
○特別支援教育の充実	○個別の支援計画等により、職員の共通理解を図る	○教職員の共通理解・共通実践により支援を要する生徒の進路希望に臨めるように努める。	●支援を要する生徒への対応・支援体制の組織化を図るため、コーディネーターを中心にSS、SSW等との連携を図る。 ●巡回相談及び専門家派遣が必要なときには機会を設け、保護者との連携を図るとともに専門家からの助言を支援に生かす。	A	●小中連携の中でも早い時期より共通理解をし、保護者の理解も深めておこなうことが、より効果的な指導支援につながると思う。 ●各専門職・機関と連携が良く図られていると思う。 ●生徒・保護者との連携を大事にして進めてもらいたい。 ●個々の生徒の個性に対応し、細やかな対応をお願いしたい。

●…県共通 ○…学校独自 ○…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	「確かな学力の育成」については、全職員による相互参観授業や効果的にICTを活用することで、授業の質が向上し、ほぼ全生徒が「先生方の授業は分かりやすい」と答えており、生徒が意欲的に授業に臨む姿が見られた。また、県学習状況調査の正答率の向上につながった。今後さらに教職員・生徒のICT活用スキルを上げること、授業の質の向上に努めたい。「豊かな人間性の育成」については、ほぼ全生徒が「望ましい学年・学級集団づくりをされている」と答えたことから、学級活動や道徳等の授業、行事等を通して、「思いやり」や「感謝」について考えることができた。「健やかな体の育成」については、9割以上が「健康教育」を通じて、自他の命を尊重する態度が育ったと思う生徒や「健康に食事は大切である」と生徒が答えたことから、健康や安全に対する意識を高めることができたと考えられる。業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減については、さらに、意識改革を図り、推進していきたい。
----------------	--